



「食通会」について語る、津田ジェネラルマネージャー



産業情報支援センターの運営組織である(株)西条産業情報支援センター(愛称:サイクス)の各種情報をお知らせします。

今回は、当センターの津田雄造ジェネラルマネージャーが「食通会」の取り組みについて紹介します。

### チャレンジ集団「食通会」 食品加工流通コンビナート構想の実現に向けて

#### ■「食通会」とは

食品加工流通コンビナート構想推進プロジェクトチーム名の略称です。一昨年12月、市役所の7名の職員により横断型組織として構想推進チームが設置されました。原則として、係長以下のヤル気のあるメンバーで構成し、県地方局農政普及課、サイクスがサポートしており、ほぼ週1回のペースで必要プロジェクトの遂行について、厳しい議論と実行を重ねています。



▲熱心に討議を行う「食通会」のメンバー

#### ■食品加工流通コンビナート構想(平成17年2・3月号で紹介)

この構想の狙いは、「農を中心とした一次食品産業の復活」と「地方産業、地方経済の自立」です。その解決策の一つとして提案しているのがこの構想なのです。

#### ■生産地で加工・調理、製品化して消費地に直送しよう

簡単に言えばこれだけの提案です。食料加工、流通手段を地方で握ろうということなのです。何より重要なのは、農家がユーザーのニーズを明確に把握できるということです。ユーザーの欲しい物と欲しい量、買える価格が分かれば市場相場に左右されることなく、契約販売、計画生産ができ、農家にとっても安心した経営ができます。

一次産業が元気を取り戻して雇用が回復する、これまで大都市部に吸い上げられていた食料の加工、流通が地方で

行われたとすれば、地方経済自立の一つの解決策となり、四国のみならず日本各地にこの構想が展開されることになれば、日本再生の夢の一翼を担うことができるでしょう。

#### ■実現への道筋

良いことの多いこの構想ですが「本当に実現が可能なのか？」が問題です。

私が最初に経済産業省(以下、経産省)にこのプランを提案した時も、あきれた様に「こんなこと、できるの?」といった反応でした。私は、「どこができませんか、できることからやってみませんか、本当に行き詰まったら諦めるのは仕方ないでしょう。また、やっていけば時代の流れと共

に解決していくことも多いはずですよ」と押し返し、「これは経産省だけでは無理だ。農林水産省(以下、農水省)の仕事が重なっている」との指摘に応じて、中国四国農政局へ説明に行き、四国経済産業局と協力しての支援、指導をお願いしました。

以来、4年にわたる両省のご支援・ご協力により、次々と必要事業を実施し、昨年7

月、農水省の地域食料産業クラスター事業のモデルプロジェクト(全国5カ所)にも選定されました。

この間、農水省の方針も従来の生産者保護を重点としたものから、生産加工流通消費者を直結する、いわゆる六次産業化を基本とした農業政策を打ちたてています。また、経産省も地域特産品を活用した地域産業政策を本格的に農水省と協力して実施する方針を打ち出しています。

本年1月末に予定している第2回総合食料産業技術懇談会(西条市・サイクス主催)には中国四国農政局、四国経済産業局の両局長の出席を予定しており、農水省総合食料局からも出席していただけることになっています。

#### ■横断的連携による柔構造システムの時代

経産省の新連携対策事業、農水省の食料産業クラスター事業、LLPトライアウトえひめの組成など、すべて横断的連携による、低コスト、ハイスピード、リスク低減をめざしたものであり、当構想も